

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 2020

事業所番号	2690200148		
法人名	医療法人 近藤内科医院		
事業所名	はるかぜガーデン御前		
所在地	京都市上京区下立売通七本松西入西東町339番地		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は京都の洛中エリアにあります。法人理念の「仕事を通じて全ての人の幸福を追求し実現します。地域との共生を図りながら地域福祉の貢献します。」この二つを実現するために努力を続けています。近隣には多数の神社仏閣が立ち並び、京都らしさを感じる地域です。暖かく天気の良い日には近くの達磨寺に参詣したり、ちょっと離れていますが北野天満宮にも足を運びます。日用品の店舗が近隣にはそろっているので、お買い物もできます。開設満3年が過ぎ、施設としての落ち着きも生まれてきました。室内は木目の和風のインテリアが施され、穏やかな雰囲気が流れています。各フロアではご入居者様がお茶を飲みながら、談話したりテレビを見たり、体操したりとのんびりと過ごしていらっしゃいます。ご入居者様、ご家族様に安心してお過ごし頂ける様職員全員で協力し合っていきたいと思

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

京都市内西部の住宅街に建つ4階建て、小規模多機能型居宅介護事業所を併設した3ユニットのグループホーム、開設3年半になる。開設以来、管理者や職員の交代が続いている。職員間の意思疎通、連携、チームワークがうまくいっていない点もある。更に今年度はコロナ禍のため、家族との面会や外出がなく、認知症が進行している利用者が多い。暮らしの中で大きな比重を占める食事と入浴についても型にはまった支援である。その中で職員の工夫によりホールに置いた手作りの大きな赤い鳥居をくぐって初詣し、おみくじを引いたり、みんなで百人一首やボウリングを楽しんだお正月、甘納豆の小さな袋を投げて鬼を追い出した節分等の行事は利用者にとって心に深く刻まれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	令和3年3月10日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果		項目		取り組みの成果	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念「地域との共生を図りながら地域福祉に貢献します。私たちは利用者を第一に考えたサービスを提供します。」を掲示板に掲示しています。	法人の理念をそのままとし、グループホームはるかぜガーデン御前の理念は開設3年になるも作成していない。理念の実践である「地域との共生」「地域福祉に貢献」等はコロナ禍を理由に一切していない。	グループホームの理念は法人から託されるものではない。社会において法人がなすべきこと、グループホームがその地域でなすべきこと、できることは自ずから異なる。グループホームの管理者と職員が話し合っって理念を作成すること、理念なるものは社会状況に関わらず実践すべきものである。特に今年度のように社会に病気や貧困が広がり「福祉」が求められている時に実践しない理念は「絵に描いた餅」である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番を実施させていただいています。新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流は今年度は控えましたが、終息後を見つめて次年度に期待したいです。11月には感染予防に留意してはるかぜ展覧会を開催しました。	利用者はふだんホームの近くを散歩したり、達磨寺に行くとかゆっく四季の風景を楽しんだりしている。郵便局はすぐ近くにあり利用者が便利に利用している。近くにはスーパーやコンビニもあり、買い物は便利である。ホームの食材や日欧品の買い物は地域の店を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外出はできませんが、施設内で”はるかぜ展覧会”を実施して多数のご家族様、ご友人と交流いただけました。あくまで自然体でのご理解を頂けるよう努めています。2階フロアからは松ぼんぼりを使った認知症の啓蒙の器		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には各ユニットから職員も出席し、現場スタッフの意見も反映できるようにしています。2階スタッフからも意見を吸い上げ、現場に生かすよう取り組んでいる。4月以降はご家族には事業報告を郵送し、アンケートを頂戴してサービス向上に生かせるよう努めています。	民生委員、御前地域包括支援センターが委員となり、各月に開催、議事録を残している。議事録は全家族に送付している。町内会の人には委員になっていない。家族は固定メンバーになっていない。ホームから利用者状況、事故・ヒヤリハット、行事等を書面にまとめ、委員胃に送付、書面で意見をもらっている。職員研修は報告していない。「利用者別の状況を知らせてほしい」という意見をもらい検討している。	運営推進会議は家族、地域住民、行政に参加してもらい、地域密着型サービスとしてのグループホーム御前の運営を点検してもらい、地域住民にとって介護や認知症について困った時に頼りになる、欠かせないグループホームになるように育ててもらうための会議である。1ユニット2人以上の家族と町内会の会長やその他の人に参加してもらうこと、ホームからの報告に職員研修を含めること、以上の2点が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員の方や民生委員の方からご意見を伺い、ご入居者様のご家族からのご意見も各ユニット会議で報告し、職員が職務内容を振り返ることができるよう努めています。	京都市とは必要な報告を行い、連携ととっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回取り組み、研修報告を書くことで職員の自己振り返りに努めています。表玄関は施錠されていますが、インターホンで誰でも出入りできるように配慮しています。ベッドからの転落を防ぐため、その方にあつたベッド位置等を工夫し考え安全性に努めています。	身体拘束をテーマに職員研修を年3回実施しており、職員はやむを得ず拘束する場合の3要件、スピーチロック等について認識している。転落防止のため夜間ベッド4点柵の利用者について検討会議をしている。代替策の検討や明確な期間はなく、継続の検討会議は実施していない。家族の同意をとっていない。玄関ドア、非常口、ユニットドア等すべて施錠、エレベーターはキロックしている。	ベッド4点柵は明確な身体拘束である。検討会議では代替策や期間の検討をし、家族同意をとること、期間終了ごとに検討会議を実施、そのたびに家族同意をとること、以上の2点が求められる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての学習に取り組み、言葉による虐待に注意し、振り返りを行うようにしています。入浴時に全身観察を行い、異変に素早く対応できるように努めています。2階フロアの職員にも拘束の有無についての確認を徹底して行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、研修報告を通じて職員自身の振り返りを行っています。リーダー職員に関しては一般職以上に理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず丁寧な説明を行い、契約締結の前に質問や確認、疑問点などへの質問時間を設けています。納得頂けるまで説明を心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や施設計画更新時など、可能な限りご家族とお話しさせていただき、立ち会った管理者がそのご意見を各フロアのリーダー会議や運営推進会議で報告します。ご意見を各職員が共有できるようにしています。	家族の面会は現在遠慮してもらっている。広報し『はるかぜ通信』を毎月発行し、家族に送付している。『はるかぜ通信』では行事報告、職員異動を知らせている。「いろいろな行事をしてもらてありがたい」との感想をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、面会時や施設計画変更時にいただいた意見を、様々な機会に職員に伝え、職員からも各種の意見や提案を聞く機会を設けて、施設運営に反映しています。リーダーから管理者を通じて法人に報告する機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士と定期的に面談し、職員の様々な思いを受け止め、働きやすい職場環境の実現に努めています。研修・資格取得を促しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の研修を行い常に前向きな、向上心を持っていただくよう努めています。職員の経験や知識に合わせフロアリーダーを柱として、介護技術などの指導育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、自由な交流はできませんでしたが、会報誌の交換などを行いました。事業所連絡会や地域ケア会議などを通じて降雨感を行いました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の担当者会議やご入居前のご紹介の時間を十分にとり、各ユニットのリーダーがご本人やご家族の困っていることや不安なことを受け止めたうえで、最小限にできるよう、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までに病院入院中の方や入所中の施設の中で面会を行い、できるだけその方の受けている介護サービスに近い形で、身体介護や生活状況を調整していくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス計画書の作成時にはできるだけご利用者様、ご家族様の気持ちを引き出し、その方の課題を抽出し、細かなサービス内容を記入していくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみなど積極的に家事活動に取り組んでいただいています。その方の日課を崩さないようとりくんでいます。職員一人一人がどのように本人に寄り添えるか考え介護を行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居様が大事にしているものはそのまま自室においてもらうなどして、家族との絆や思い出の物のエピソードを聞けるよう環境づくりを行い、段々に距離を知事めていけるように努めています。ご家族には、日々の本		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため面会は制限されましたが、オンラインにより定期的にご家族様との面会が可能となっております。その時々可能な形でコミュニケーションを取り、関係性が途切れることのないよう支援しています。	利用者の馴染みの人や場との関係継続の支援はしていない。	長い人生を生きてきた利用者は今グループホームで最後の日々を過ごしている。子どもの時、友達だった人、仕事仲間、近所付き合いをしていた人、趣味の友達等々、どうしているか、もう一度会いたい。生まれた家、先祖の墓、夫と初めて出会った場所、毎年花見に行った所、毎年見ていた祭り等々、もう一度行きたい。このようなもう一度会いたい人、もう一度行きたい所への支援をすることが求められる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の個性を把握し、どの方も孤立する事がないよう、入居者様間の交流を進めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方からご質問等があれば、丁寧な応答を心がけています。相談窓口を作り契約終了後も相談して頂ける体制を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と常日頃からコミュニケーションを釣るよう努めています。日常生活の中で聞き取った、願いや問題点を記録していくように努めています。本人本位の支援を検討し、実施出来るように努めています。	契約時に管理者が利用者、家族と面談、グループホームの説明をすると共に利用者の医療、介護の情報を収集している。グループホームの暮らしに対する利用者、家族の意向を聴取している。利用者は「元気で楽しく過ごしたい」「何もわからない」等が記録されている。利用者の生活歴の情報を記録しているものの、京都、東京、兵庫等の出身地、保健所勤務、子ども3人等、生家のこと、結婚生活等、情報は非常に少ない。	様々な人生を送ってきた利用者の生活をグループホームで支援するためには一人ひとりの利用者を深く理解することが欠かせない。利用者の生家や子ども時代の事、現役の時の仕事や趣味、夫の仕事や子どものこと等結婚生活、以上のような利用者の生活歴の情報を収集して記録し、職員が共有することが求められる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけご家族様からの情報を得られるよう努めています。生活歴だけでなく、その方が得意とする事や、苦手な事などをお聞きしています。介護保険サービスの利用があった方については、担当のケアマネージャーにも情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を単なる生活の繰り返しととらえず、日々新たなご利用者様の生活ととらえて、その日できなくても次の日はできたことなどを記録にとどめ、職員全体で情報共有するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議だけでなく、ユニット全体でご利用者と職員が話し合える機会を設け、皆様からアイデアを頂けるように努めています。その際発言や表情、拒否などの詳細を記録し、介護の質を上げていくように努めます。より本人やご家族の意向を尊重したプランになるよう努めます。	入居後にケアマネジャーが利用者のアセスメントをし、介護計画を作成している。介護計画は身体介護の項目が多く、暮らしの楽しみの項目は「行事参加」等、その利用者固有の楽しみではない。、認証周辺症状への対応の項目はない。サービス担当者会議は利用者のみ、家族や医師の参加や意見聴取はない。介護記録は生活のデータと利用者の様子の記録であり、介護計画の実施記録は実施したかどうかの記録であり、その時お利用者の発言や表情は書いていない。モニタリングはケアマネジャーが毎月実施しているものの介護計画の評価になっていない。	介護計画には職員だけでなく、利用者、家族医師や他のさまざまな立場の人の意見を反映すること、介護計画は身体介護だけでなく、どんな重度な人にもその人だけの暮らしの楽しみの項目と認知症周辺症状への適切な対応の項目を入れること、介護記録は介護計画を実施した時の利用者の発言や表情を書き、モニタリングの根拠になるようにすること、介護計画の評価となるようなモニタリングを毎月実施すること、以上4点が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、気づきや対策までを記入し、できるだけ計画書に沿った記録を残しています。個々の日課表を掲示し、下肢のむくみのある方は足台を設置するなど、さらに工夫しています。職員間の連絡帳も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の要望に応じた、他の介護サービスの情報や支援の在り方など、情報提供に努めています。より良いサービスの見直しができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、近くの食料品店に出かけるのも短時間のみとなりましたが、安全に配慮して支援させていただいています。コロナ終息後は、地域行事への参加も再開させたいと考えます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の定期往診で受診支援を行っています。また状況によっては、臨時往診や受診も行っていきます。	ほとんどの利用者は毎月往診にくる内科医をかかりつけ医として受診している。1人の利用者は入居前からのかかりつけ医を受診している。★歯科医は訪問歯科医を利用、認知症はクリニックほりかわを受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、一日数度各フロアを回って、ご利用者様の体調の把握に努めています。介護職員からも情報提供を受け、素早い変化対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の連絡先を日頃より確認し、入院が必要な時には、入院先の病院とも確認を取り合いながら、早期対応に努めています。かかりつけ医との連絡も密に行っています。体調不良時は電話での対応も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りの在り方については十分話し合っているが、介護保険更新時などにも、意向の変化がないかを確認しています。病状の変化に応じて都度家族様との話し合いを行っています。重度化対応指針や看取り指針を説明しています。	利用者の重度化と終末期の対応について文書を作成、契約時に家族に説明、「意向確認書」をとっている。それによると、心肺停止になった時、蘇生措置を希望するか否か、老衰状態になった時、入院を希望するか否か、である。利用者の意向は聴取していない。「看取り」の事例はない。職員にはターミナルケア研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時や緊急時、どのように対応するかについてマニュアルで確認しあうことを大切にしています。ユニット会議でも話し合いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに、ハザードマップを掲示して職員一人一人が避難場所を確認しています。災害時の避難訓練を定期的に行い避難経路の確認を行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、職員同士が対応を注意しあっています。フロア内でもプライバシーを確保するように努めています。	利用者への対応と言葉遣いの基本方針は「丁寧な、思いやりある対応と言葉遣い」であり、職員研修している。職員には乱暴な言葉、命令口調、ちゃんづけ等を禁止している。職員会議や申し送りは事務室で実施、利用者のプライバシーに配慮している。暮らしでは利用者を選択してもらいたいと、起床や就寝時間は利用者ごとに異なる。利用者に飲みたいものを飲んでもらうためにお茶、コーヒー、紅茶、ココア、ポカリスエット等を準備している。利用者は美容師に髪型を注文、化粧品もっていて自分でお化粧する人等がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、食べたいものやしたいことなどをお聞きするようにしています。新型コロナウイルス感染予防のため、外出が制限された分、希望が多く出てきました。終息後、実現できるようさらに言葉かけを続けたいと考えています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の提供や入浴日などすでに決まっている予定であっても、まずはその方のその日の精神状態、体調に合わせ、可能な限り、その方のご希望に合わせてるように調整して、支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の訪問理容で、整髪を行っている。新型コロナウイルス感染予防のため、休止していた時は、職員が整髪を行ったが好評でありました。おしゃれにも配慮しています。衣服は本人様に確認して決めるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けをお手伝いいただいたり、食器の選択も行っていただいたりしています。後片付けも積極的にご参加いただいています。コロナ対策の為あとかたづけ等にも消毒を徹底しています。	食事	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックしながら、少ない方にはご本人のお好きな飲み物や補食、ゼリー飲料等で栄養水分不足とならないよう配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは自立されている方は傍らで見守り、介助が必要な方には支援させていただいています。義歯はいれば洗浄剤で、毎日洗浄しています。また訪問歯科と連携して必要な治療、口腔ケアの指導を受けるようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄表を見て、ご利用者様おひとりおひとりの排泄パターンを把握して、声掛けしたり誘導を行っています。日中と夜間のパット種類を変えて不快感の軽減に努めています。	尿意があり、トイレの場所を知っていて自身で処置できるという、排泄の自立をしている人は3人、日中もオムツ使用の人は3人、他の利用者はリハビリ、パット使用で職員が声掛けしトイレ誘導している。自然排便が困難でほとんどの利用者が下剤を常用している、	便通のための下剤はいったん常用服用すると自然排便は不可能になる。今の利用者にはどうすることもできないが、今後入居する際には必ず自然排便のためのケアをすることが求められる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、看護師が薬剤調整を行っています。できるだけ自然排便が試みられるように、乳酸菌飲料を提供するだけでなく、コーヒーや紅茶にはオリゴ糖を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めています。ご利用者様のその日の体調に合わせて入浴提供しています。拒否されるときには無理強いせず、臨機応変な対応を心がけています。	ホームが予めスケジュールを立て、利用者に声掛けしている。湯の温度、湯に浸かっている時間も決まっている。1人の入浴拒否の利用者は1か月入浴していない。利用者は自分のシャンプーやローションも浸かっている。	入りたい日、入りたい時間ではなく、湯の温度も、湯に浸かっている時間きmられていて、シャンプーやローションも自分好みではない。利用者が入浴を楽しむ要素が全くない。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合った休息時間を設け、一日の中でレクリエーションや体操の時間を設け、気持ちよく自然に睡眠に入っていけるよう支援しています。睡眠状況が気分にも大きな影響を与える為睡眠の質は大切だと考えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬剤情報書を各ユニットに配置・保管し、薬剤変更や調整があった時には看護師から情報提供を行い、同時に介護職員も確認しています。ダブルチェックを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の残存能力と活動意欲を見ながら、その日に応じて食器洗いや洗濯物たたみをして頂き、これらの行為を通じて、役割と自信を持ち続けていただくよう支援させていただきます。おやつも食べすぎとならないよう確認しながら提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出を制限しています。疑似体験として、どこそこに行ったらこんなことをしようといった話題を提供しています。	利用者は今年度、ホームの近くも含めて散歩には行っていない。またドライブも気候が良い時も出かけていない。ちょっとした買い物も職員が代行している。	人混みが少ない時間帯にホームの近くを少しでも散歩したり、職員の運転で少数の利用者を連れてドライブしたり、少しの工夫でコロナ禍といえども認知症の利用者にとって外出は必要である。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のご希望に応じて、お買い物を受けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン面会を実施している。家族や大切な人とコミュニケーションが取れている。年賀状のやり取りも行っている。事務室で受け取りご本人様に確実にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべてバリアフリーの設備になっており、時間の感覚が狂わないようカーテンの開け閉めに注意し、窓を開け外気の取り込みにも注意しています。水耕栽培を続け、緑の色彩感も身の回りにもあるようにしています。掲示板に写真をはったり作品を飾ったりしています。整理整頓も心がけています。	居間兼食堂(ホール)には食卓と椅子を置いている。片側は窓である。室内に南天、ヒイラギ、ポインセチア等、季節の花を飾っている。壁には季節ごとに手作りの雛飾り、こいのぼり、七夕、クリスマスツリー等の貼り絵等を貼っている。利用者との職員との合作である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性に合わせて、座席を決めています。状況に応じて席替えを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の了承を得ながら、ご本人が居心地よい居室の工夫に取り組んでいます。	居室は洋間、カーテン、エアコン、ベッドを設置している。利用者はテレビ、ラジオ、仏壇、位牌、遺影、家族写真、鉢植えの花、愛読書、置時計、化粧品等持ち込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名札を明記し、歯ブラシやコップはご利用様が扱いやすいように配置しています。車いすもご利用される方が動きやすい動線を作っています。安全を確保し、たとえばキッチンで簡単な作業もして頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念「地域との共生を図りながら地域福祉に貢献し、利用者を第一に考えたサービスを提供します」を掲示板に掲示しています。	以下の項目すべて2Fユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番を実施させていただいています。新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流は今年度は控えましたが、終息後を見つめて次年度に期待したいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外出はできませんが、施設内で”はるかせ展覧会”を実施して多数のご家族様、ご友人と交流いただけました。あくまで自然体でのご理解を頂けるよう努めています。日々の実践、施設中研修を通じて、認知症の理解と支援		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には各ユニットから職員も出席し、現場スタッフの意見も反映できるようにしています。ご家族様にはアンケートを配布して事業報告を行い、意見交換してサービス向上にいかせるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員の方や民生委員の方からご意見を伺い、ご入居者様のご家族からのご意見も各ユニット会議で報告し、職員が職務内容を振り返ることができるよう努めています。関係機関からの助言・アドバイスを有効に活かしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回取り組み、研修報告を書くことで職員の自己振り返りに努めています。表玄関は施錠されていますが、インターホンで誰でも出入りできるように配慮しています。ベッドからの転落を防ぐため、その方にあつたベッド位置等を工夫し考え安全性に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての学習に取り組み、言葉による虐待に注意し、振り返りを行うようにしている。入浴時に全身観察を行い、異変に素早く対応できるよう努めています。常に虐待に対する意識を高めるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、研修報告を通じて職員自身の振り返りを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず丁寧な説明を行い、契約締結の前に質問や確認、疑問点などへの質問時間を設けています。本人様やご家族様に納得のいくまで説明し、同意して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や施設計画更新時など、可能な限りご家族とお話しさせていただき、立ち会った管理者がそのご意見を各フロアのリーダー会議や運営推進会議で報告します。ご意見を各職員が共有できるようにしています。運営推進会議の事業報告に同封し提出します。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、面会時や施設計画変更時にいただいた意見を、様々な機会に職員に伝え、職員からも各種の意見や提案を聞く機会を設けて、施設運営に反映しています。リーダーから管理者を通じて法人に報告するようになっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士と定期的に面談し、職員の様々な思いを受け止め、働きやすい職場環境の実現に努めています。やりがいと向上心を持ち続けられるよう支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の研修を行い常に前向きな、向上心を持っていただくよう努めています。知識についてはフロア会議等で指導するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス対策の為、十分な交流は出来ませんでしたが、広報誌の交換などを通じて繋がりを作ってきました、		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の担当者会議やご入居前のご紹介の時間を十分にとり、各ユニットのリーダーがご本人やご家族の困っていることや不安なことを受け止めたうえで、最小限にできるよう、関係作りに努めています。ご本人様を理解することに最大限の時間を作ると努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までに病院入院中の方や入所中の施設の中で面会を行い、できるだけその方の受けている介護サービスに近い形で、身体介護や生活状況を調整していくよう努めています。日々の生活に関する説明を丁寧に行い、良好な関係が続くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人様、ご家族、関係機関へ聞き取りを行い、望まれていることを確認し、意向に沿ったサービスを提供できるよう検討していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみなど積極的に家事活動に取り組んでいただいています。その方の日課を崩さないようとりくんでいます。その人らしい役割を持てるよう支援していきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様が大事にしているものはそのまま自室においてもらうなどして、家族との絆や思い出の物のエピソードを聞けるよう環境づくりを行い、段々に距離を知事めていけるように努めています。日々の小さな出来事も記録しお伝えできるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス対策の為、十分な交流は出来ませんでしたが、手紙を書いたり、ご家族の方とはオンライン面会を行って頂いて、関係が途切れないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事レクレーションや調理作成レクレーションを積極的に取り入れ、リビングで利用者様がお互い顔を合わせながら、会話ができるように努めています。孤立することのない様に、職員を配置しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された方からご質問等があれば、丁寧な応答を心がけています。受付部署を設けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と常日頃からコミュニケーションをとるよう努めています。日常生活の中で聞き取った、願いや問題点を記録していくように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけご家族様からの情報を得られるよう努めています。生活歴だけでなく、その方が得意とする事や、苦手な事などをお聞きしています。介護保険サービスの利用があった方については、担当のケアマネージャーにも情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を単なる生活の繰り返しにとらえず、日々新たなご利用者様の生活ととらえて、その日できなくても次の日はできたことなどを記録にとどめ、職員全体で情報共有するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議だけでなく、ユニット全体でご利用者と職員が話し合える機会を設け、皆様からアイデアを頂けるように努めています。その際発言や表情、拒否などの詳細を記録し、介護の質を上げていくように努めます。ご利用者の意向に沿った形にするよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、気づきや対策までを記入し、できるだけ計画書に沿った記録を残しています。個々の日課表を掲示し、下肢のむくみのある方は足台を設置するなど、さらに工夫しています。職員間の連絡帳も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の要望に応じた、他の介護サービスの情報や支援の在り方など、情報提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、近くの食料品店に出かけるのも短時間のみとなりましたが、安全に配慮して支援させていただいています。コロナ終息後は、地域への散歩等を復活させたいと考えます。地域の情報を把握し、支援に生かしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の定期往診で受診支援を行っています。また状況によっては、臨時往診や受診も行っています。かかりつけ医とは体調不良時の電話での経過報告・相談が出来る。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、一日数度各フロアを回って、ご利用者様の体調の把握に努めています。介護職員からも情報提供を受け、素早い変化対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の連絡先を日頃より確認し、入院が必要な時には、入院先の病院とも確認を取り合いながら、早期対応に努めています。かかりつけ医との連絡も密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りの在り方については十分話し合っているが、介護保険更新時などにも、意向の変化がないかを確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時や緊急時、どのように対応するかについてマニュアルで確認しあうことを大切にしています。ユニット会議でも話し合いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに、ハザードマップを掲示して職員一人一人が避難場所を確認しています。定期的に避難経路の確認や災害時必要物資の確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、職員同士が対応を注意しあっています。特に言葉遣いについては、フロア会議でも話題にして、注意しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、食べたいものやしたいことなどをお聞きするようにしています。新型コロナウイルス感染予防のため、外出が制限された分、希望が多く出てきました。終息後、実現できるようさらに言葉かけを続けたい。また、希望の気持ちを受け取り、選択して		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の提供や入浴日などすでに決まっている予定であっても、まずはその方のその日の精神状態、体調に合わせ、可能な限り、その方のご希望に合わせられるように調整して、支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の訪問理容で、整髪を行っている。新型コロナウイルス感染予防のため、休止していた時は、職員が整髪を行ったが好評でありました。おしゃれにも配慮しています。毎日好きな洋服を着られるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けをお手伝いいただいたり、食器の選択も行っていただいたりしています。後片付けも積極的にご参加いただいています。消毒を徹底しながら毎日の食後のあとかたづけをお手伝いいただきます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	接種水分量や食事量は、毎日記録し、当日少なめの摂取の方には、その方の嗜好を確認して対応するようにしています。食事の形状も一人一人の状態にあった形状でご提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは自立されている方は傍らで見守り、介助が必要な方には支援させていただいています。義歯は入歯洗浄剤で、毎日洗浄しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄表を見て、ご利用者様おひとりおひとりの排泄パターンを把握して、声掛けしたり誘導を行っています。日中と夜間のパット種類を変えて不快感の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、看護師が薬剤調整を行っています。できるだけ自然排便が試みられるように、乳酸菌飲料を提供するだけでなく、コーヒーや紅茶にはオリゴ糖を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めています。ご利用者様のその日の体調に合わせて入浴提供しています。拒否される際には無理強いせず、臨機応変な対応を心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合った休息時間を設け、一日の中でレクリエーションや体操の時間を設け、気持ちよく自然に睡眠に入っていけるよう支援しています。居室空間の整備を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬剤情報書を各ユニットに配置・保管し、薬剤変更や調整があった時には看護師から情報提供を行い、同時に介護職員も確認しています。ダブルチェックを行います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の残存能力と活動意欲を見ながら、その日に応じて食器洗いや洗濯物たたみをして頂き、これらの行為を通じて、役割と自信を持ち続けていただくよう支援させていただきます。レクリエーションも各種用意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出を制限しています。疑似体験として、どこそこに行ったらこんなことをしようといった話題を提供しています。他の階へ行っていただき、コーヒーやお茶を飲んでいただき、新鮮な雰囲気を味わって頂いています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のご希望に応じて、お買い物を受けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン面会を実施しているので、家族や大切な人とコミュニケーションが取れている。年賀状のやり取りも行っている。事務室で受け取りご本人様に確実にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべてバリアフリーの設備になっており、時間の感覚が狂わないようカーテンの開け閉めに注意し、窓を開け外気の取り込みにも注意しています。水耕栽培を続け、緑の色彩感も身の回りにあるようにしています。定期的に掃除を行い、換気にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性に合わせて、座席を決めています。座席変更もご希望に沿って、頻繁に行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の了承を得ながら、ご本人が居心地よい居室の工夫に取り組んでいます。ご家族の写真等も飾って親しみある空間にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名札を明記し、歯ブラシやコップはご利用者様が扱いやすいように配置しています。車いすもご利用される方が動きやすい動線を作っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所理念を掲示板に掲示しています。	以下の項目すべて2Fユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番を実施させていただいています。新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流は今年度は控えましたが、終息後を見つめて次年度に期待したいです。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、外出はできませんが、施設内で”はるかせ展覧会”を実施して多数のご家族様、ご友人と交流いただきました。あくまで自然体でのご理解を頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には各ユニットから職員も出席し、現場スタッフの意見も反映できるようにしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の職員の方や民生委員の方からご意見を伺い、ご入居者様のご家族からのご意見も各ユニット会議で報告し、職員が職務内容を振り返ることができるよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を年2回取り組み、研修報告を書くことで職員の自己振り返りに努めています。表玄関は施錠されていますが、インターホンで誰でも出入りできるように配慮しています。ベッドからの転落を防ぐため、その方にあつたベッド位置等を工夫し考え安全性に努めています。定期的にフロア会議		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての学習に取り組み、言葉による虐待に注意し、振り返りを行うようにしている。入浴時に全身観察を行い、異変に素早く対応できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、研修報告を通じて職員自身の振り返りを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず丁寧な説明を行い、契約締結の前に質問や確認、疑問点などへの質問時間を設けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や施設計画更新時など、可能な限りご家族とお話しさせていただき、立ち会った管理者がそのご意見を各フロアのリーダー会議や運営推進会議で報告します。ご意見を各職員が共有できるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、面会時や施設計画変更時にいただいた意見を、様々な機会に職員に伝え、職員からも各種の意見や提案を聞く機会を設けて、施設運営に反映しています。リーダーから管理者を通じて法人に報告するようになっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会保険労務士と定期的に面談し、職員の様々な思いを受け止め、働きやすい職場環境の実現に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の研修を行い常に前向きな、向上心を持っていただくよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため、自由な交流はできませんでしたが、会報誌の交換などを行いました。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の担当者会議やご入居前のご紹介の時間を十分にとり、各ユニットのリーダーがご本人やご家族の困っていることや不安なことを受け止めたうえで、最小限にできるよう、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始までに病院入院中の方や入所中の施設の中で面会を行い、できるだけその方の受けている介護サービスに近い形で、身体介護や生活状況を調整していくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス計画書の作成時にはできるだけご利用者様、ご家族様の気持ちを引き出し、その方の課題を抽出し、細かなサービス内容を記入していくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗い、洗濯物たたみなど積極的に家事活動に取り組んでいただいています。その方の日課を崩さないようとりくんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様が大事にしているものはそのまま自室においてもらうなどして、家族との絆や思い出の物のエピソードを聞けるよう環境づくりを行い、段々に距離を縮めていけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親しい方には、コロナ禍であっても可能な形で施設に来ていただき、差し入れを頂くなど関係が途切れないよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事レクレーションや調理作成レクレーションを積極的に取り入れ、リビングで利用者様がお互い顔を合わせながら、会話ができるように努めています。入居者が孤立することのないよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様と常日頃からコミュニケーションを釣るよう努めています。日常生活の中で聞き取った、願いや問題点を記録していくように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけご家族様からの情報を得られるよう努めています。生活歴だけでなく、その方が得意とする事や、苦手な事などをお聞きしています。介護保険サービスの利用があった方については、担当のケアマネージャーにも情報を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を単なる生活の繰り返しにとらえず、日々新たなご利用者様の生活ととらえて、その日できなくても次の日はできたことなどを記録にとどめ、職員全体で情報共有するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議だけでなく、ユニット全体でご利用者と職員が話し合える機会を設け、皆様からアイデアを頂けるように努めています。その際発言や表情、拒否などの詳細を記録し、介護の質を上げていくように努めます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、気づきや対策までを記入し、できるだけ計画書に沿った記録を残しています。個々の日課表を掲示し、下肢のむくみのある方は足台を設置するなど、さらに工夫しています。職員間の連絡帳も利用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の要望に応じた、他の介護サービスの情報や支援の在り方など、情報提供に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、近くの食料品店に出かけるのも短時間のみとなりましたが、安全に配慮して支援させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の定期往診で受診支援を行っています。また状況によっては、臨時往診や受診も行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、一日数度各フロアを回って、ご利用者様の体調の把握に努めています。介護職員からも情報提供を受け、素早い変化対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時の連絡先を日頃より確認し、入院が必要な時には、入院先の病院とも確認を取り合いながら、早期対応に努めています。かかりつけ医との連絡も密に行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、看取りの在り方については十分話し合っているが、介護保険更新時などにも、意向の変化がないかを確認しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時や緊急時、どのように対応するかについてマニュアルで確認しあうことを大切にしています。ユニット会議でも話し合いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施するとともに、ハザードマップを掲示して職員一人一人が避難場所を確認しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する研修を行い、職員同士が対応を注意しあっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、食べたいものやしたいことなどをお聞きするようにしています。新型コロナウイルス感染予防のため、外出が制限された分、希望が多く出てきました。終息後、実現できるようさらに言葉かけを続けたいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の提供や入浴日などすでに決まっている予定であっても、まずはその方のその日の精神状態、体調に合わせ、可能な限り、その方のご希望に合わせられるように調整して、支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回の訪問理容で、整髪を行っている。新型コロナウイルス感染予防のため、休止していた時は、職員が整髪を行ったが好評でありました。おしゃれにも配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けをお手伝いいただいたり、食器の選択も行っていただいたりしています。後片付けも積極的にご参加いただけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	接種水分量や食事量は、毎日記録し、当日少なめの摂取の方には、その方の嗜好を確認して対応するようにしています。食事の形状も一人一人の状態にあった形状でご提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは自立されている方は傍らで見守り、介助が必要な方には支援させていただいています。義歯はいれば洗浄剤で、毎日洗浄しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄表を見て、ご利用者様おひとりおひとりの排泄パターンを把握して、声掛けしたり誘導を行っています。日中と夜間のパット種類を変えて不快感の軽減に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、看護師が薬剤調整を行っています。できるだけ自然排便が試みられるように、乳酸菌飲料を提供するだけでなく、コーヒーや紅茶にはオリゴ糖を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定日は決めています。ご利用者様のその日の体調に合わせて入浴提供しています。拒否されるときには無理強いせず、臨機応変な対応を心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人に合った休息時間を設け、一日の中でレクリエーションや体操の時間を設け、気持ちよく自然に睡眠に入っていけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の薬剤情報書を各ユニットに配置・保管し、薬剤変更や調整があった時には看護師から情報提供を行い、同時に介護職員も確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の残存能力と活動意欲を見ながら、その日に応じて食器洗いや洗濯物たたみをして頂き、これらの行為を通じて、役割と自信を持ち続けていただくよう支援させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出を制限しています。疑似体験として、どこそこに行ったらこんなことをしようといった話題を提供しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のご希望に応じて、お買い物を受けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン面会を実施しているので、家族や大切な人とコミュニケーションが取れている。年賀状のやり取りも行っている。事務室で受け取りご本人様に確実にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべてバリアフリーの設備になっており、時間の感覚が狂わないようカーテンの開け閉めに注意し、窓を開け外気の取り込みにも注意しています。水耕栽培を続け、緑の色彩感も身の回りにもあるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性に合わせて、座席を決めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の上承を得ながら、ご本人が居心地よい居室の工夫に取り組んでいます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名札を明記し、歯ブラシやコップはご利用者様が扱いやすいように配置しています。車いすもご利用される方が動きやすい動線を作っています。		